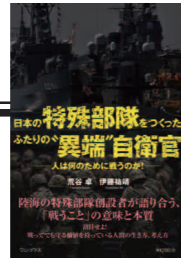


日本 戦闘の 者



荒谷 卓 (あらや たかし)
生年月日：昭和34年秋田県出身
略歴：昭和53年東京理科大学、陸上自衛隊に入隊、第19普通科連隊、調査学校、第1空挺団、第39普通科連隊、陸上幕僚監部防衛部、防衛局防衛政策課戦略研究室等に勤務。平成16年特殊作戦群初代群長に就任。平成20年依願退職(1等陸佐)。海外留学：ドイツ連邦軍指揮大学及び米国特殊作戦学校。
平成21年9月～30年10月、明治神宮武道場至誠館館長。
平成30年11月三重県熊野市に「国際共生創成協会：熊野飛鳥むすびの里」設立、代表を務める
著書：『戦う者たちへ』『サムライ精神を復活せよ』『特殊部隊vs.精鋭部隊—最強を目指せ』並木書房／「自分を強くする動かない力」三笠書房
熊野飛鳥むすびの里のHPアドレス
<https://musubinosato.jp/>

040



筆者と、元海自特殊警備隊・伊藤祐靖氏の対談本。各特殊部隊創設の経緯から、バールに包まれた組織の姿、そして「戦うこと」の意味と本質を縦横無尽に語り合う。発行：ワニブックス・定価：1,600円+税

今回は、戦略的思考そして戦略行動について話をする。つまり、将来において何を成し遂げたいかということだ。よく、お偉いさんのスピーチで「不透明な国際情勢の中」とか「先行きの不透明な情勢下」とか言う人がいるが、これは自らの戦略思考の欠落を宣言しているようなものだ。自分がどうしたいかが明確であれば、不透明な未来なんてものはない。自分が為そうと決めたことが、どれ程実現できるかだけの問題になる。社会の在り方に関して、自らの意志とビジョンを持たないやつは、世の中の変化に対応できず右往左往しているが、世界は明確な意思とビジョンをもって動いている。ただし、その意志とビジョンが一つではなく複数あるだけの話だ。

複数の意志とビジョンが存在する社会の中で、自らの意思を如何に実現するかということに常に考えることが戦略思考となり、それを具体化するための行為が戦略行動となる。ことわっておくが、現在の法律や制度に乗っかってただけ金を稼ぐとか、決められた枠組みの中でいい成果・いい人生を達成するというような、他者の意志とビジョンによって決められたルールの中で自己実現を図るような思考と行為は戦略とは言わない。これは戦術レベルの話だ。戦略とは、自らがルール・メーカーとなり創造的に社会を構築しようとする思考と行動だよ。

さて、そこで将来の社会創りの話に移るとしよう。まず、現状において世界情勢に最もインパクトを与えている要因は、善かれ悪しかつ「グローバル化」であるということには異議がないと思う。もう一つは、第2次世界大戦以降、このグローバル化をけん引してきた「米国の政治・軍事・経済・情報等のコミットメント」が大きな要因であるということも自明のことだ。この二つの要因の変化が将来の世界環境に最も大きな影響を及ぼす。したがって、この二つの要因を基軸に世界の将来推移を見てみ

ると、四つの将来シナリオが描かれる。一つ目は、「グローバル化がさらに進展して、米国のコミットメントが継続する」シナリオ①

二つ目は、「グローバル化は進展するが、米国のコミットメントは後退する」シナリオ②

三つ目は、「グローバル化が後退し、米国のコミットメントは継続する」シナリオ③

四つ目が、「グローバル化も、アメリカのコミットメントも後退する」シナリオ④

それぞれのシナリオについて少々説明すると次のようになる。

シナリオ①は、グローバル化がさらに進展するという事だから、現在推進中のグレートリセットが完成した状態だ。世界中の人間の一元的デジタル管理化とともに国家主権が存在意義をなくし、新世界秩序の下に世界は革命の変革を遂げた社会へと移行する。これを米国がけん引するという事は、表面上、民主主義のカモフラージュを取る為、実際に世界を管理するパワーエリートの真意は情報操作によって秘匿されたまま、フェイクとバーチャルな情報下で世界は管理されることになる。この世界においては、世界中の政治、経済、情報、軍事は一元的に管理される。つまり、共産主義社会と同じように世界秩序に対する批判や挑戦は世界政府によって抑制排除されるので、形態上は戦争も対立もない奴隷的平和状態となる。日本という国家は存在せず、せいぜい日本という地域名称が残るか、あるいはよりデジタル管理しやすい記号名称に変わる。個人々の生活は、管理者から与えられるベーシックインカムや信頼スコアに応じたデジタル報酬がチャージされる中で、完全監視下に決められた生活をするようになる。管理者が指示するワクチン接種や各種統制に従わなければ信頼スコアが下がり、デジタル通貨の使用が停止され生活不能になる。世界人口調整が行われる場合は、こうした管理命令への不服従者だけではなく、能力評価の低いものから順に殺処分される。

シナリオ②は、基本的にはシナリオ①と同じなのだが、それをけん引するメインプレイヤーが中国になるというケースだ。これは、中国独自の意志と力でここまで行けるわけではなく、パワーエリートと呼ばれるグローバ

リストの何人かが中国を利用してグローバル化を推進するというものだ。例えば、ビル・ゲイツなどはコロナ対策などにおいて中国のやり方を絶賛している。政府の指示に従わなければ、躊躇なく強制力を持って従わせるというやり方だ。新世界秩序を推進するパワーエリートは、その前提において民主主義と国家を否定している。そうしないと、少数の限られた個人が世界の富と権力を手中に収めることはできないからだ。米国が主導する場合は、最後に厄介なのが民主主義だ。人々がデモをおこし、ホワイトハウスを占領するようでは、最後の締めで失敗する。最後は中国のように強制力を持って服従させるというわけだ。だから、このシナリオが①と違うのは、人々を情報で騙して管理するのではなく、強制力をもってわかり易く服従させるという事だ。

シナリオ③は、元米国大統領のトランプなどが主張していたように、世界に単一秩序をつくる目論見は否定され、主権国家の力関係による世界だ。この世界では、依然として米国は大国であり続けるが、世界秩序の構築に対する責任には無関心で、関心は自国の利益だけである。それぞれの主権国家が自国の事だけを考えるわけだから、不安定ではあるが、冷戦間や冷戦後のように秩序作りのために国家を転覆させるような紛争は無くなる。国家資産の国外流出は監視されるので、資本の自由な移動は禁止される。つまり個人による自由競争を原則としていた市場経済は無くなる、常に経済活動には国家が干渉する。人々の生活は国力に応じたレベルになり、資源国、生産国の国民は豊かになる。他方、無資源で生産力の低い消費国家は衰退するので国民は貧窮に陥る。日本は、米国による援助も支援もなくなるので、食糧の自給率を向上し人口増加を図り自立生産力を高めなくては三流の貧困国になる。

シナリオ④は、人類学者のエマニュエル・トッドなどが主張している世界で、アングロサクソンがリードしていた世界は終わり、世界人類の多様な家族構造を基盤にした多様な文化国家から成る世界が出現する。現実的には、プーチン露大統領等がダボス会議等で主張しているもので、それぞれの文化伝統、信仰をベースにした主権国家から成る世界の再構築である。現在大国と言われているような国も、構成する人々の文化や信仰に応じ、自治が細分化されるので、超大国は無くなる。夫々の国の政治行政、司法、経済等は、自国の文化、宗教、伝統に基づいた形で運営される。このような世界では、自立

した民族としての社会理念がしっかりと確立している国は国民の結束力が高く国力も増進する。他方、それが不明確な国は、例えば、市場に依存しマネーを稼いで大量消費することでGDPだけが上がったような国は消滅するであろう。

さて、こうした四つの将来シナリオが出来たところで、日本にとって真に望ましい国際環境とは何かを考えなくてはならない。この四つの中のどれがいいかではなく、真に望ましい国際環境を構築するためには、この四つのシナリオを如何に利用するかが戦略的考察になる。

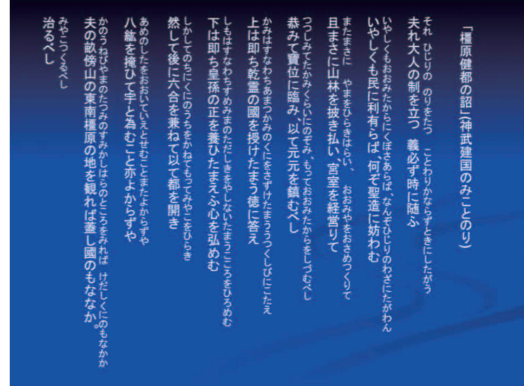
現状のまま何も変化がなければ、シナリオ①かシナリオ②が実現するだろう。このシナリオが、日本を破壊し将来の夢が失われていくことは、現状からも推察できるが、エンド・ステートは日本がなくなるのだから最悪である。国家を失った日本人は、グローバルリストの手先となる一部日本人だけがいい目を見るだろうが、大方の日本人は奴隷化することになる。

欧米のナショナリストは、反グローバルリズムを上げて、多くの国民の賛同を得てシナリオ③を目指しているようだが、大方、トランプのように潰されていく。シナリオ③の世界環境下では、日本が自力で国力を増進するためには、明治から大東亜戦争までと同じように富国強兵による国力増進しか手段がない。ことわっておくが、このような世界環境下で日米同盟は存在しない。何故なら、日米同盟は米国が世界秩序構築のために日本を利用するツールに過ぎなかったからだ。そもそも、富国強兵のような霸道政治は、日本の文化価値と相反する。もし、この様な国際社会で日本が生きていくとすれば、江戸時代のような鎖国体制を取るのが最適だろう。しかしながら、米国や中国の干渉が続くシナリオ③もまた、日本にとって望ましい国際環境とはいえない。

シナリオ④は、大東亜戦争終戦以降、日本が日本らしく存在することを決定的に妨げてきた米国とグローバルリストのくびきから日本が解放される世界だ。日本人が日本人としての価値を取り戻し、自らの文化価値の中で生きていく覚悟を決め、神武建国以来の国家を構築するとすれば、シナリオ④の国際環境を利用するのが望ましい。つまり、現在における日本の戦略的思考と行動は、いかに

シナリオ①～③の実現を回避し、シナリオ④の実現を促進するかに向けられるべきだ。

しかし、もっと大事な事は、日本が日本であるため、日本人が日本を自治するための根本的価値が何であるのかが明確に確立されてなくては、全ての思考と行動を誤ることになる。日本という国家の起源は、戦後でもなければ近代化された明治でもない。一貫して日本を貫いているもの、それは、肇国の時代(戦後は縄文時代と呼んでいるが国生みの時代のこと)の生活文化形態である。世界で最も早く集団で定住生活をはじめ(17,000年ほど前から)、世界民族の中で最も長く同じ土地に住み、しかも土地を枯らさず豊かにして自然と共存共栄してきた日本人。それが出来たのは、「家」という集団を大事に継承してきたからだ。神武天皇の建国の詔では、その家の団結を国家に広め、宇宙の下に一つの家のような国を創ろうと人々によびかけた。だから日本では国を「国家」という。真の平和は、人々が家族的団結をしなければ達成できないとの確信があったからだ。残念ながら、戦後占領下で、この日本の「家(家長制縦家族)」が壊され、アングロサクソンと同じ絶対核家族になり個人主義を培養し、社会倫理や道徳を培った家督の継承は法的に消滅した。戦争が無ければ平和だと教えられ、悪いことを正せない非暴力の世界を平和な世界だと刷り込まれ、結果的に、法に支配された奴隷状態の新世界秩序を平和な世界と勘違いするように洗脳されてきた。平和は、個人や法による契約や支配によっては生まれえない。好きな人とも嫌いな人も生命活動を共にする共同生活の中に平和がある。それを実践し教育するのが「家(家長制縦家族)」である。そこで育まれた。共存、共助、共栄慣習を地域に広め、国家に広め、世界に広める。これが日本人の国家の根本価値である。日本人が、このことを自覚し、一人一人の主体性ある団結によって国家の再興を図れば、世界に真に平和な国が生まれることになる。



国際共生創成協会 熊野飛鳥むすびの里
代表：荒谷卓

